

スキル科目

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター
研究倫理特論	研究と実践の倫理	2	原 塑、坂井 信之、 浜田 宏、辻本 昌 弘、中西 太郎、小松 原 織香、阿部 恒 之、小泉 政利	前期 水曜5限
西洋古典文化特論	西洋古典文化への招待	2	荻原 理	後期 水曜4限
英語発表技能演習	英語の学術発表	2	CRAIG CHRISTOP HER ROBIN JAMI E	後期 火曜4限
英語研究論文作成法Ⅰ	Advanced Academic Writing in EnglishⅠ	2	STEPHEN HALE	前期 水曜3限
英語研究論文作成法Ⅱ	Advanced Academic Writing in EnglishⅡ	2	STEPHEN HALE	後期 水曜3限
日本語研究論文作成法Ⅰ	アカデミックライティングの 基礎	2	高橋 亜紀子	前期 火曜2限
日本語研究論文作成法Ⅱ	アカデミックライティングの 書き方	2	高橋 亜紀子	後期 火曜2限
日本語理解表現スキルⅠ	読解力と口頭表現能力の 改善	2	小河原 義朗	前期 火曜5限
日本語理解表現スキルⅡ	読解力と口頭表現能力の 改善	2	小河原 義朗	後期 火曜5限
日本語口頭表現スキルⅠ	自分の意見を伝える力を 伸ばす	2	島崎 薫	前期 水曜2限
日本語口頭表現スキルⅡ	自分の意見を伝える力を 伸ばす	2	島崎 薫	後期 水曜2限
キャリア設計演習	キャリア・イメージを作る	2	猪股 歳之	後期 木曜3限
アーカイブズ学研究演習	アーカイブズ学研究法	2	加藤 諭	前期 木曜2限
デジタルアーカイブ特論	デジタルアーカイブの基礎 と活用	2	田村 光平、片倉 峻 平	後期 木曜4限

科目名：研究倫理特論

曜日・講時：水曜 5 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：原 塑、坂井 信之、浜田 宏、辻本 昌弘、中西 太郎、小松原 織香、阿部 恒之、小泉 政利

コード：LM13501, **科目ナンバリング：**LAL-0AR509J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：研究と実践の倫理

2・授業の目的と概要：科学研究は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、他方、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、人びとを誤った仕方でも導いたりすることもあります。そのため、研究に従事する人々(大学生を含みます)は、倫理的・手続き的に正しい仕方で行なう責任を負っています。特に、人文社会科学では、実験・質問紙調査・フィールドワーク・聞き取り調査・歴史資料・インターネット情報の収集など様々な手法で行なわれるため、多様な倫理的問題に対処しなければなりません。この授業では、研究倫理と公正な研究

3. 学習の到達目標：研究倫理と公正な研究について理解し、その理解に基づいて、研究を実践できるようになることが、この授業の到達目標です。より具体的な到達目標は以下の通りです。

1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深めること。
2. 実験・調査参加者や、その他の関係者の権利を尊重する必要性、そのために考慮すべき事項や手続きを理解し、その知識に基づいた研究活動を行なうこと。
3. 責任ある仕方で行なう研究を実施するために研究者が遵守すべき様々な規範と、その規範を遵守すべき理由を理解した上で、その規

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は、オンライン、非同期授業(主としてオンデマンド型遠隔授業)として実施します。

授業内容は以下の通りです。

- 第1回:イントロダクション(担当:原塑)
- 第2回:人を対象とした医学系研究における倫理(担当:坂井信之)
- 第3回:心理学実験における倫理(担当:坂井信之)
- 第4回:質問紙調査研究の実践と倫理(担当:浜田宏)
- 第5回:研究倫理を踏まえた質問紙調査法改善の動向(担当:浜田宏)
- 第6回:フィールドワークにおける倫理の基本原則(担当:辻本昌弘)
- 第7回:フィールドワークにおける倫理の実践的問題(担当:辻本昌弘)
- 第8回:聞き取り調査の実践と倫理の諸問題(担当:中西太郎)
- 第9回:研究と当事者性(担当:小松原織香)
- 第10回:著作権・商標・特許等の問題について(担当:阿部恒之)
- 第11回:研究不正の防止と対応(担当:小泉政利)
- 第12回:人文学・社会科学分野における盗用(担当:原塑)
- 第13回:共同研究とオーサiership(担当:原塑)
- 第14回:ピア・レビューと利益相反(担当:原塑)
- 第15回:人文学・社会科学分野における研究の質と研究公正性との関係(担当:原塑)

5. 成績評価方法：平常点 30%、e-ラーニングの受講 20%、レポート 50%

6. 教科書および参考書：指定された教科書はありません。参考書は授業時に教えます。

7. 授業時間外学習：講義内容について十分、復習を行ってください。授業内容について独自に調べ、理解を深めた上で、それをレポートとしてまとめていただきます。また、公正な研究について、e-ラーニングを受講する必要があります。e-ラーニングの受講方法については、初回の授業で指示します。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：西洋古典文化特論

曜日・講時：水曜 4 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LM23401, 科目ナンバリング：LAL-0AR510J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：西洋古典文化への招待

2・授業の目的と概要：古代ギリシャ・ローマの文化について基本的な事柄を学び、西洋古典古代の世界に馴染む。歴史、言語、哲学、宗教、諸芸術（文学・演劇・美術）の重要事項を学ぶ。また、西洋古代文化が後代に与えた影響や、日本でのその受容にも若干触れる。

3. 学習の到達目標：西洋古典文化に馴染み、最重要事項について説明できるようになる。西洋文化の今後の研究に活かせるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

講義形式だが、積極的に質問してもらいたい。

参加者の関心を尊重して内容を調整したい。

参加者の人数にもよるが、最後 2~3 回ほどをプレゼンにあてる。

1. イントロ
2. ギリシャ・ローマの歴史 (1)
3. ギリシャ・ローマの歴史 (2) / ギリシャ語とラテン語について
4. ギリシャ・ローマの宗教と哲学 (1)
5. ギリシャ・ローマの宗教と哲学 (2)
6. ギリシャ・ローマの宗教と哲学 (3)
7. ギリシャ・ローマの文学と演劇 (1)
8. ギリシャ・ローマの文学と演劇 (2)
9. ギリシャ・ローマの文学と演劇 (3)
10. ギリシャ・ローマの美術 (1)
11. ギリシャ・ローマの美術 (2)
12. 西洋古典文化の後代への影響
13. プレゼンテーション
14. プレゼンテーション
15. プレゼンテーション

講義とは別に、毎回出す読書課題（たとえば、ホメロス『イリアス』を少しずつ読み進めるなど）について感想を交換する。

5. 成績評価方法：授業時のパフォーマンス、とくにプレゼンテーション

6. 教科書および参考書：授業時に指定する

7. 授業時間外学習：読書課題（たとえば、ホメロス『イリアス』を少しずつ読み進めるなど）。授業の内容の復習。プレゼンテーションの準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

受講にあたり、あらかじめ学んでおかなければならないことは特にない。

科目名：英語発表技能演習

曜日・講時：火曜 4 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：CRAIG CHRISTOPHER ROBIN JAMIE

コード：LM22401, 科目ナンバリング：LAL-0AR513E, 使用言語：英語

1. 授業題目：英語の学術発表

2. 授業の目的と概要：授業では、英語の学術の環境の中で研究を報告の仕方を学ぶ。また、全面的に英語の学会やシンポジウムに参加する方法を学ぶ。

3. 学習の到達目標：英語の学会やシンポジウムに参加し報告することが出来るための必要の技術を学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 序論:英語の学会
2. 発表・報告の基本
3. ディスカッションと質問
4. 学生発表と フィードバック
5. 学生発表と フィードバック
6. 学生発表と フィードバック
7. 学生発表と フィードバック
8. 学生発表と フィードバック
9. 学生発表と フィードバック
10. 学生発表と フィードバック
11. 学生発表と フィードバック
12. 学生発表と フィードバック
13. 学生発表と フィードバック
14. 学生発表と フィードバック
15. 学生発表と フィードバック

5. 成績評価方法：Presentation [60%], Discussion participation [40%]

6. 教科書および参考書：必要な適宜資料を配布する。

7. 授業時間外学習：1 回研究発表

12 回ディスカッション

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英語研究論文作成法 I

曜日・講時：水曜 3 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：STEPHEN HALE

コード：LM13301, 科目ナンバリング：LAL-OAR514E, 使用言語：English

1. 授業題目：Advanced Academic Writing in English I

2・授業の目的と概要：This course is an introduction to the process of academic writing in English. The foremost objective is to enable students to gain practical skills and confidence for communicating effectively in formal English writing. To this end, students will learn an

3. 学習の到達目標：As a result of completing this course, students will be able to:

- 1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for formal academic essays in English.
- 2) identify different types of essays and make correct writing decisions related to pu

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Semester I Course Introduction; the Writing Process; Plagiarism
- 2) Page Layout Rules and Word Processing; Writing Email
- 3) Capitalization Rules; Parts of a Paragraph; Introduction to Assignment 1
- 4) Basic Sentence Structure; Revision (Proofreading and Editing)
- 5) Parts of an Essay; Introduction Paragraph; Attention Getters
- 6) Thesis Statements; Introduction to Assignment 2; Essay Model Analysis
- 7) Parallelism; Conclusion Paragraph; Colons and Semicolons
- 8) Writing Workshop for Assignment 2
- 9) Introduction to Assignment 3; Essay Model Analysis
- 10) Hyphens and Dashes; Cohesion
- 11) Writing Workshop for Assignment 3
- 12) Writing about a Process; Introduction to Assignment 4; Essay Model Analysis
- 13) Process Writing (continued); Audience and Tone
- 14) Writing Workshop for Assignment 3; Test Preview/Course Review and Evaluation
- 15) Semester I Test

5. 成績評価方法：The final grade will be determined by: (1) class work, homework, and class attendance; (2) writing assignments, and (3) a semester test.

6. 教科書および参考書：Reference materials and practical activities will be provided on a weekly basis in printed and/or digital form. All assignments and class prints, furthermore, should be saved and carefully stored in a notebook.

7. 授業時間外学習：There is a lot of homework in this course, especially in completing writing assignments according to strict-yet reasonable-deadlines. Because most of the learning is based on actually doing and redoing a series of tasks, success in this course depends on

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

Class attendance is expected at all times. Absences will adversely affect your grade in this course. In principle, no auditors will be accepted.

科目名：英語研究論文作成法Ⅱ

曜日・講時：水曜 3 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：STEPHEN HALE

コード：LM23301, 科目ナンバリング：LAL-OAR515E, 使用言語：English

1. 授業題目：Advanced Academic Writing in English II

2・授業の目的と概要：Advanced Academic Writing in English II is a continuation of Advanced Academic in English Writing I (AAWEI) from the spring semester; therefore successful completion of AAWEI is prerequisite for taking this course. Using the fundamental skills of academic

3. 学習の到達目標：As a result of taking this course, students will be able to:

- 1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for research papers in English.
- 2) identify and evaluate potential resources of information.
- 3) select a topic, then systematical

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Semester II Course Introduction; the Research Process
- 2) Choosing a Topic; Identifying Potential Resources; Working Bibliography
- 3) Gathering and Evaluating Source Materials
- 4) Paragraph Organization and Note-Taking
- 5) Note-Taking (continued); Quotations and Paraphrasing
- 6) Capitalization, Italics, and Quotation Marks
- 7) Model Analysis; Writing an Outline
- 8) Writing Workshop 1
- 9) Writing the First Draft; Citing Sources; Avoiding Plagiarism
- 10) Writing Workshop 2
- 11) Works Cited List; Layout for Final Draft; Evaluation Rubric
- 12) Writing Workshop 3
- 13) Abstract Writing; Presentation of Research
- 14) Research Presentations; Test Preview/Course Review and Evaluation
- 15) Semester II Test

5. 成績評価方法：The final grade will be determined by: (1) class work, homework, and class attendance; (2) research paper and abstract; (3) research presentation; and (4) semester test.

6. 教科書および参考書：Reference materials and practical activities will be provided on a weekly basis in printed and/or digital form. All assignments and class prints, furthermore, should be saved and carefully stored in a notebook.

Note that the Style Guide of the Modern La

7. 授業時間外学習：There is a lot of homework in this course, especially in completing the various research steps according to strict-yet reasonable-deadlines. Because most of the learning is based on actually doing a series of tasks, success in this course depends on consi

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

Class attendance is expected at all times. Absences will adversely affect your grade in this course.

In principle, no auditors will be accepted.

科目名：日本語研究論文作成法 I

曜日・講時：火曜 2 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LM12201, **科目ナンバリング：**LAL-0AR516J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：アカデミックライティングの基礎

2・授業の目的と概要：この授業の目的は、大学や大学院の学習に必要なレポートや論文を正確に、わかりやすく書けるようになることです。そのために、日本語で文章を書くときに必要な基礎的な知識、文法、表現などを学びます。また、ペアやグループで相互にコメントし、レポートをよりよくする方法も学びます。

- 3. 学習の到達目標：**
- 1 文章を書くときに必要な表現やスキルを身に着ける
 - 2 読み手にわかりやすく書く力をつける

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 自己紹介文を書く
3. 自分の研究を紹介する
4. 書き言葉のルール
5. 過程を説明する
6. 定義を説明する①
7. 定義を説明する②
8. 分類・例示を説明する①
9. 分類・例示を説明する②
10. 比較・対照を説明する①
11. 比較・対照を説明する②
12. 原因・結果を説明する①
13. 原因・結果を説明する②
14. 全体のまとめ①
15. 全体のまとめ②

5. 成績評価方法：宿題 50%、出席及び受講態度 40%、最終レポート 10%
以上の割合で、総合的に判定する

6. 教科書および参考書：教科書はありません。授業のときに配布します。
参考書は『Good Writing へのパスポート』（くろしお出版）、『レポート・論文を書くための日本語文法』（くろしお出版）など

7. 授業時間外学習：ほぼ毎週、作文の宿題があります。授業では、宿題で書いてきた作文をペアやグループで読み合います。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語研究論文作成法Ⅱ

曜日・講時：火曜 2 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LM22201, **科目ナンバリング：**LAL-0AR517J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：アカデミックライティングの書き方

2・授業の目的と概要：この授業の目的は、大学や大学院の学習に必要なレポートや論文を作成する手順にそって、レポートを完成させるまでのプロセスを学ぶことです。そのために、テーマの調べ方や資料の調べ方、文章の構成の仕方、引用の方法などを学びます。また、ペアやグループで相互にコメントし、レポートをよりよくする方法も学びます。

- 3. 学習の到達目標：**
- 1 文章を書くときに必要な表現やスキルを身に着ける
 - 2 読み手にわかりやすく書く力をつける
 - 3 レポートや論文を作成する方法を身に着ける

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. テーマを見つけよう・調べよう
3. 資料の探し方を知ろう
4. 資料を整理しよう・話し合おう
5. 資料を読んで整理しよう
6. テーマの絞り込みと定義の重要性を学ぼう
7. 定義の書き方を考えよう
8. 筆者の意図と構成を考えよう
9. タイトル・アウトラインを作成しよう
10. 引用方法や参考文献の書き方を学ぼう
11. レポートを書くときの表現を学ぼう
12. レポートを作成する前に確認しよう
13. ともだちのレポートを読んでフィードバックをしよう
14. フィードバックを読んで、よりよい文章に直そう
15. 自分のレポートを読んで、自分の成長をまとめよう

5. 成績評価方法：宿題 50%、出席及び受講態度 40%、最終レポート 10%
以上の割合で、総合的に判定する

6. 教科書および参考書：教科書はありません。授業のときに配布します。

参考書は『あしか：アイデアをもって社会について考える（レポート・論文編）』（ココ出版）、『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』（ひつじ書房）など

7. 授業時間外学習：ほぼ毎週、作文の宿題があります。授業では、宿題で書いてきた作文をペアやグループで読み合います。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語理解表現スキル I

曜日・講時：火曜 5 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM12501, **科目ナンバリング：**LAL-0AR525J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：読解力と口頭表現能力の改善

2・授業の目的と概要：読解活動は、読んだことから内容を再構築する過程です。そこでこの授業の目的は、あるまとまった文章を読んで理解したことを相手に話すことによって、読む力と話す力を伸ばします。そのため、授業では、ペアになって、読んだ内容を相手に伝えるという目的で読み、相手に話す活動を繰り返し行います。

3. 学習の到達目標： 1 数文レベルから 600 字程度までのまとまった文章を読んで理解できる
2 理解した内容を相手に適切に伝えることができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 再話活動(1)
3. 再話活動(2)
4. 再話活動(3)
5. 再話活動(4)
6. 再話活動(5)
7. 再話活動(6)
8. 中間テスト
9. 再話活動(7)
10. 再話活動(8)
11. 再話活動(9)
12. 再話活動(10)
13. 再話活動(11)
14. 再話活動(12)
15. 期末テスト

5. 成績評価方法：課題 50%、中間テスト 25%、期末テスト 25%
以上の割合で、総合的に判定する

6. 教科書および参考書：教科書はありません。授業のときに指示します。
参考書は『初中級からの読解』（凡人社）、『新わくわく文法リスニング 100』（凡人社）など

7. 授業時間外学習：毎回、課題があります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

このクラスは外国人留学生（N2 レベル、または N1 でも日常生活で話すことが苦手）のためのクラスです。

科目名：日本語理解表現スキルⅡ

曜日・講時：火曜 5 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM22501, **科目ナンバリング：**LAL-0AR526J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：読解力と口頭表現能力の改善

2・授業の目的と概要：読解活動は、読んだことから内容を再構築する過程です。そこでこの授業の目的は、あるまとまった文章を読んで理解したことを相手に話すことによって、読む力と話す力を伸ばします。そのため、授業では、ペアになって、読んだ内容を相手に伝えるという目的で読み、相手に話す活動を繰り返し行います。

3. 学習の到達目標： 1 数文レベルから 600 字程度までのまとまった文章を読んで理解できる
2 理解した内容を相手に適切に伝えることができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 再話活動(1)
3. 再話活動(2)
4. 再話活動(3)
5. 再話活動(4)
6. 再話活動(5)
7. 再話活動(6)
8. 中間テスト
9. 再話活動(7)
10. 再話活動(8)
11. 再話活動(9)
12. 再話活動(10)
13. 再話活動(11)
14. 再話活動(12)
15. 期末テスト

5. 成績評価方法：課題 50%、中間テスト 25%、期末テスト 25%
以上の割合で、総合的に判定する

6. 教科書および参考書：教科書はありません。授業のときに指示します。
参考書は『初中級からの読解』（凡人社）、『新わくわく文法リスニング 100』（凡人社）など

7. 授業時間外学習：毎回、課題があります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

このクラスは外国人留学生（N2 レベル、または N1 でも日常生活で話すことが苦手）のためのクラスです。

科目名：日本語口頭表現スキル I

曜日・講時：水曜 2 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LM13201, 科目ナンバリング：LAL-0AR533J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：自分の意見を伝える力を伸ばす

2・授業の目的と概要：この授業では、現代社会を象徴するさまざまなトピックに関する動画を観て、それをもとに授業でディスカッションをします。トピックに関する語彙や表現について理解を深めるとともに、そのトピックに関する自分の意見を伝える力を伸ばすことを目指します。

3. 学習の到達目標：①トピックに関する語彙や表現について理解を深め、適切に使えるようになる
②トピックに関する動画を観て、動画が伝えたい趣旨を理解することができる
③トピックに関して自分の意見を伝えることができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 オリエンテーション
- 2 ディスカッション(1)
- 3 ディスカッション(2)
- 4 ディスカッション(3)
- 5 ディスカッション(4)
- 6 ディスカッション(5)
- 7 ディスカッション(6)
- 8 ディスカッション(7)
- 9 ディスカッション(8)
- 10 ディスカッション(9)
- 11 ディスカッション(10)
- 12 ディスカッション(11)
- 13 ディスカッション(12)
- 14 ディスカッション(13)
- 15 まとめ

5. 成績評価方法：毎週の課題 40%

授業への参加態度、授業でのパフォーマンス 60%

6. 教科書および参考書：特になし。担当教員作成 PPT 資料、配布資料を使用する。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

この授業は日本語中上級レベル以上留学生向けの日本語の授業です。

科目名：日本語口頭表現スキルII

曜日・講時：水曜2限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LM23201, 科目ナンバリング：LAL-0AR534J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：自分の意見を伝える力を伸ばす

2・授業の目的と概要：この授業では、現代社会を象徴するさまざまなトピックに関する動画を観て、それをもとに授業でディスカッションをします。トピックに関する語彙や表現について理解を深めるとともに、そのトピックに関する自分の意見を伝える力を伸ばすことを目指します。

3. 学習の到達目標：①トピックに関する語彙や表現について理解を深め、適切に使えるようになる
②トピックに関する動画を観て、動画が伝えたい趣旨を理解することができる
③トピックに関して自分の意見を伝えることができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 オリエンテーション
- 2 ディスカッション(1)
- 3 ディスカッション(2)
- 4 ディスカッション(3)
- 5 ディスカッション(4)
- 6 ディスカッション(5)
- 7 ディスカッション(6)
- 8 ディスカッション(7)
- 9 ディスカッション(8)
- 10 ディスカッション(9)
- 11 ディスカッション(10)
- 12 ディスカッション(11)
- 13 ディスカッション(12)
- 14 ディスカッション(13)
- 15 まとめ

5. 成績評価方法：毎週の課題 40%

授業への参加態度、授業でのパフォーマンス 60%

6. 教科書および参考書：特になし。担当教員作成 PPT 資料、配布資料を使用する。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

この授業は日本語中上級レベル以上留学生向けの日本語の授業です。

科目名：キャリア設計演習

曜日・講時：木曜 3 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：猪股 歳之

コード：LM24301, 科目ナンバリング：LAL-0AR521J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：キャリア・イメージを作る

2・授業の目的と概要：この授業では、文学部学生が、日本でのキャリア形成や労働法制といった基本事項について理解を深めるとともに、実際の「働く」現場のあり様について具体的なイメージを持ち、自らの将来のキャリアを主体的にプランニングしていけるよう、キャリア・社会連携支援センターと共同して実践的な教育指導を行います。取得単位は学部専門教育科目として卒業単位にカウントされます（学生便覧で確認のこと）。

3. 学習の到達目標：職業生活についての具体的なイメージを得て、自らのキャリアについて主体的に構想していけるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. キャリア形成の基礎知識(1)
3. キャリア形成の基礎知識(2)
4. ビジネス全般について(1)
5. ビジネス全般について(2)
6. ビジネス全般について(3)
7. 公務員
8. 労働法
9. 二十歳のハローワーク（様々な職種で活躍する先輩等による就職講演会）
10. 業界・仕事研究セミナー(1)
11. 業界・仕事研究セミナー(2)
12. 業界・仕事研究セミナー(3)
13. 自己分析と就職活動(1)
14. 自己分析と就職活動(2)
15. まとめ

5. 成績評価方法：授業と指定されたセミナー等への参加およびその報告の提出（100％）。

6. 教科書および参考書：特になし。必要な資料は授業時に配付する。

7. 授業時間外学習：授業中に指示された課題の準備。日常的にニュースやインターネット等を通じて経済情報に目配りすること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

○

9. その他：

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業

科目名：アーカイブズ学研究演習

曜日・講時：木曜 2 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：加藤 諭

コード：LM14201, 科目ナンバリング：LAL-0AR535J, 使用言語：使用言語は日本語です。

1. 授業題目：アーカイブズ学研究法

2・授業の目的と概要：本講義は、実際にアーカイブズ機関において必要とされるアーキビストの業務について、ディスカッションや実践を通じて体得する授業である。アーカイブズ機関の現場で求められるアーキビストの使命・倫理、資料保存に関する技術、公文書の保存・修復・利用に関する知識、専門的な知識やマネジメント、職務上必要なスキルやマネジメント能力について、理解を深めることを目的とする。

3. 学習の到達目標：本講義は、現場のアーキビストとのディスカッションや、マネジメントに関する演習等をおこない、アーカイブズ機関において必要とされるアーキビストの知識・技能を体得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. アーキビストの使命と役割
3. 国立大学法人における文書管理と連携
4. 大学アーカイブズにおける保存・修復・利用
5. 大学アーカイブズにおける MLA 連携とアウトリーチ活動
6. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践①
7. 自治体アーカイブズにおける業務と実践①
8. 自治体アーカイブズにおける業務と実践②
9. 民間アーカイブズにおける業務と実践
10. 自治体アーカイブズにおける業務と実践③
11. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践②
12. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践③
13. 東北大学史料館における記録資料の整理公開①
14. 東北大学史料館における記録資料の整理公開②
15. まとめ

5. 成績評価方法：出席[50%]・受講態度[40%]・レポート[10%]

6. 教科書および参考書：レジュメ随時配布

7. 授業時間外学習：配付されたレジュメを復習すること。レポートを作成すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：デジタルアーカイブ特論

曜日・講時：木曜 4 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：田村 光平、片倉 峻平

コード：LM24401, 科目ナンバリング：LAL-0AR523J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：デジタルアーカイブの基礎と活用

2・授業の目的と概要：情報技術は、記録の保全・継承・活用等に関する諸課題の解決に大きく貢献することが期待されている。前半は、デジタルアーカイブの基礎的な紹介をするとともに、なぜ今デジタル・アーカイブが注目されているのか、さまざまな社会的課題と関連づけて紹介する。後半は、デジタルアーカイブに関する技術の基礎を紹介し、デジタルアーカイブの構築・運用のための知識を習得するとともに、実際のデジタルアーカイブ構築を経験する。

3. 学習の到達目標：デジタルアーカイブの意義や課題を、情報技術に関わる社会的な諸課題と結びつけて理解する。デジタルアーカイブ構築を経験する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・デジタルアーカイブとはなにか
2. デジタルアーカイブの多様性
3. デジタルアーカイブへの期待
4. デジタルアーカイブによる保管と継承
5. デジタルアーカイブによるアクセスの拡大
6. デジタルアーカイブのためのデータ構築：3次元計測の実習
7. デジタルアーカイブの活用1：研究とデジタル・ヒューマニティーズ概論
8. デジタルアーカイブの活用2：教育・アウトリーチ
9. 中間まとめ
10. 技術的な話題1：情報リテラシーの基礎
11. 技術的な話題2：サーバー、データベース、メタデータ
12. 技術的な話題3：TEIとIIIF
13. 技術的な話題4：TEIとIIIFの実例
14. 実習：デジタルアーカイブの構築
15. 最終まとめ

5. 成績評価方法：受講態度 [20%]、レポート [40%]、演習の成果物 [40%]

6. 教科書および参考書：以下を参考書として挙げる。

柳与志夫（責任編集）『入門 デジタルアーカイブ』（勉誠出版）

後藤真・橋本雄太（編）『歴史情報学の教科書』（文学通信）

一般財団法人人文情報学研究所（監修）『人文学のためのテキストデータ構築入門：TEIガイドラインに準拠した取り組みにむけて』（文学通信）

一般財団法人人文情報学研究所（監修）『IIIF[トリプルアイエフ]で拓くデジタルアーカイブ：コンテンツの可能性を世界につなぐ』（文学通信）

7. 授業時間外学習：授業前に読んでおくべき資料を提示することがある。中間まとめ時にレポート、最終まとめ時にデジタルアーカイブの提出を求めため、授業時間外に作成する必要がある。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

後半はPCの持参が必要な回がある。個人用のPCを持っていない場合は、初回のガイダンス時に相談すること。